

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいこい
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県出水市高尾野町
記入者名 (管理者)	小畑真智子
記入日	平成 21 年 2 月 23 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前外部評価後、ミーティング実施し、ホーム独自の理念を検討した。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社の理念は職員休憩室、トイレに掲示し、グループホームの理念は廊下と食堂に掲示。理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族には家族会、毎月の便り等を通して伝えている。	○ 地域の方々には推進会議等を通じて、広く伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご利用者様と一緒に犬の散歩等で隣近所の方に、気軽に声をかけていただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに民家が多く、散歩の際は声をかけていただくなど日々の付き合いができています。ボランティアの受け入れも行っている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実践はしていないが、認知症への理解を得られるよう地域で勉強会を開催したいと話し合っている。	○	地域の方々との交流で事業所にとって何が出来るか推進会議を通して話をし合い取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング、申し送りノート等を通し評価の説明を行ない職員全員で取り組み、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	今後も評価の努力点について具体的に話し合いを持ち改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一回目の会議でご利用者の状況について会員の方々に報告。気づいた点を指摘していただき話し合いを行ない、意見をサービス向上に活かしている。	○	認知症の理解も含めて、推進会議を活かして、地域へのつながりを持ち、サービスの向上につなげたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの課題で、困難事例が生じた時など市に相談し、サービス向上に取り組んだ。	○	今後も、市としての意見なども伺いながらサービスの向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業等の研修会に出る機会は少なく、今後勉強していく必要を感じている。	○	職員全員、権利擁護事業について理解し活用できるような支援をしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会の研修会に出席したり、社内勉強会でも学習することで虐待が見過ごされる事が無いよう注意し、防止に努めたい。	○	今後も高齢者虐待防止関連法について勉強していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご利用者様や御家族に、当ホームの説明を行なっている。又、家族側の不安、疑問を聞き説明を行ない理解、納得を得ている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様が何でも話しやすい関係作りに心掛けている。ご利用者様の意見を反映できるよう話し合いを行ない、運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の便りや面会時にて日々の生活の様子を報告している。金銭管理については管理者、統括と確認しながら毎月出納簿コピー、領収書を送付している。又、必要時には個別にて電話報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族会を開催し、意見を出してもらう機会を作っている。出された意見は検討し御家族に報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、必要に応じて運営者に伝えている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者様の暮らしをできるだけ支えられるよう利用者の状態に合わせたローテーションを組んでいる。その都度必要に応じて、対応出来る様にミーティング等で話し合いを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者に理解を求め異動や離職がやむ得ない場合もその時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が外部の研修を受けられるように心掛けている。また事業所内の勉強の計画を立て、勉強会等も実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡協議会に加入し、定期的な会合や研修に出席して、サービスの質の向上をしていく取り組みを行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、休憩室を確保している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実施等、職員の心身の健康を保つ為の対応をしている。又、資格取得に向けた支援を行い、職場環境作りにも努めている。	○	今後も職員の健康状態を考慮し、向上心が持てる職場環境に努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談にて生活状態を把握するよう努め、ご本人に合った心身の状況や思いに向き合い、受け入れられるような関係作りに努めている。	○	今後も継続し、ご本人の状況を把握し信頼関係を作ることに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの御家族の苦労や経緯についてゆっくり話を聞くようにしている。また面会時に要望等について話を聞く機会を作るよう信頼関係に努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者には可能な限り柔軟な対応を行ない、場合によっては地域包括センターへ相談したり他事業所につなげるなどの対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人や御家族に事業所を見学してもらうことから始め、利用になった際は御家族、関係者に面会に来てもらい、徐々に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の話をしていただいたりそれぞれが培ってきた経験から人生の先輩としての教えを頂き職員も人間として成長出来る様に学んでいる。	○	今後もご本人の立場に立ち、一緒に過ごしながらご本人から学べる事を学び、信頼関係に努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の思いや様子をきめ細かく伝え、職員はご本人と一緒に支える家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日頃の状況をこまめに報告、相談すると共に外出や外泊にて御家族と一緒に過ごす事を勧めている。又、遠方にいる御家族等には、ホーム便りや写真を送り状況を知らせている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らすなじみの知人、友人に会いに行ったり、以前入居されていた方の家を訪問するなどして、関係が切れないよう支援に努めている。	○	ご利用様の御家族の命日など墓参りができるような心掛けもしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので注意深く見守り、ご利用者様同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。	○	個々のご利用者様同士の関係を把握し、みんなで楽しく過ごせる時間を考慮し継続できるよう努めたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	面会に行ったり折りにふれて御家族へ電話で状態を伺ったりしている。又、在宅サービスを受ける方については、居宅支援事業所と連絡を取り合うこともある。	○	事業所の行事にお誘いするなど今後も継続的なお付き合いが出来る様に今後も努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけなどから把握に努めている。又、面会時に御家族へ日々の状態をお話しながら情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様、日々の声かけの中から情報を得たり、御家族から話を伺うなどして把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活日誌や個人記録などを利用しながら生活のリズムを理解するとともにご利用者様の行動などや心身の状態を把握出来る様に努めている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア担当者会議やスタッフ間のケア会議などを行ない、ケアに関しての計画作成を行っている。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケア会議を行ないケアに関して見直しを行っているが、計画に関してのな見直しは、日々の業務におわれて十分に行なう事ができていない。	○ 今後は、ケア会議や御家族からの情報を十分にケアに反映出来る様に努力していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じて個人記録などには記録したり出来ているが、介護計画については、上記同様都度の計画に充分には反映できていない。	○ 今後は、計画に十分に反映出来る様に都度介護計画を見直し、会議時などに介護計画を持ち込んで修正出来る様にしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて入居者様やその御家族の送迎のサービスや、病院受診などの付き添いなどを行っている。	○ 送迎や病院の付き添いに限らず御家族と入居者様が過ごしていただく時間を作る為に外出<買い物>などの介助を行ってきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練や地域運営推進会議などを通して交流を行ない、ホームへ来所下さった際は、ホームをご案内したりするなどしている。	○ 今後も会議だけではなく地域への行事などへの参加を入居者様と行いながらケアを行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスについては、入居者様の事で相談することは無いが入居申し込みや、すでに入居を申し込まれた方の情報などについて連絡を取るなどの連携を図っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などについて参加いただき、包括支援センターからの意見を伺うようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、御家族との意見を伺った上で主治医を決定して受診していただいている。又、かかりつけ医には、状態に応じて十分に連携出来る様に日曜でも連絡を取って対応していただくなどしている。	○	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご利用者様の状態を客観的に主治医に報告している。スタッフからの情報に主治医の先生方からご連絡を頂くこともあり、内服や日常生活の注意点などアドバイス頂くこともある。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者・介護計画作成者ともに看護師の資格を持っているので、かかりつけの病院と連携を図りながら、健康管理を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した病院とも連絡を取り合い、情報交換を行いながら連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化に伴い、御家族・関係者と連絡を取り合い相談をしながら、今後の対応について話し合いの機会を持つようにしている。	○	御家族や入居者様が不安になることのないように充分配慮した対応を心掛けていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケアスタッフ間では、ミーティングを行いながら入居者様の状態について日々検討できるようにして、かかりつけ医との連携の下御家族も含めて話し合いながら今後の方針について検討できるようにしている。	○	今後も入院して早期の段階から御家族と連絡を取り合いながら、対応について検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	御家族の意思や、経済的理由での退所が決まった 事例があったが、ご本人のご意見は後手に回っ てしまっていた。		今後は、出来るだけ御家族ご本人と充分 に話し合う時間をもち、対応出来る様に していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	ケア時のプライバシー保護については、言葉遣いや語 調など日頃より常に気をつけ、そのつど管理者が注意 している。また、個人情報の保護方針を掲示したり、 入居時の説明事項へ明記し利用者や家族に説明してい る。	○	声かけについて、時として説得するよう な口調になってしまうことがある。一人 ひとりを尊敬し敬意を持って接するよう 心掛けていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	ご利用様に合わせた話し方や説明を行うよう配 慮している。又、ご本人の思いや希望を生活の様 子の中や、会話を通してくみ取れるよう努めてい る。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	一人ひとりのペースに合わせ、その日の体調や気 持ちに沿った援助に努めているが、職員の都合が 優先されている事がある。	○	少しでも希望に沿った生活ができるよ うに努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	着替える際、ご本人が望む洋服を選び着る事が出 来る様支援している。理容、美容は御家族やご本 人が望む店に行けるよう支援している。特に希望 がない方は、2ヶ月に1回ボランティアの方が訪 問し散髪等をされている。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みが食事に反映できるようメ ニューを決め、誕生日や行事等のお祝い事には、 巻き寿司やご利用様がリクエストされるもの をなるべくお出しし、楽しんで食事していただ けるよう努めている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の希望に合わせて買い物へ行ったり、好みの飲み物等も一人ひとりの望みに合わせて楽しめるよう努めている。	○	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行ないご本人のパターンをつかみ、その人に合った支援を行えるよう努めている。誘導の時間やおむつの使用についても、ミーティング等で職員みんなと話し合いケアの統一に努めている。	○	ご本人の失禁時の尊厳もあるので状態を十分に配慮しながら、スタッフ間でミーティングを行ない排泄の介助をご利用者様が不快無く出来る様に今後も配慮していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を設定し入浴していただいているが、その日に応じて入浴日以外でも利用できるようにしている。順番についても意見を重視している。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者様の状態をみて、休息を促したり夜の安眠を支援できるよう、レクリエーションやドライブ等、昼間の活動に誘ったりする。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌などの楽しみや、洗濯物、おしぼりをたたんだりという作業に積極的に参加していただけるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布、現金を持っていただけるよう、御家族にも理解を求め、できるだけ買い物の支援を行っている。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ等本人の希望に沿った外出援助を行っている。春から秋にかけては、戸外で過ごす時間も長く、出かける機会も多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の食べに行きたい食堂、レストランへ出向いたりして意向に添った行事計画を立て、個人の希望が反映した場所や内容になるよう外出への支援を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様に贈り物・お手紙など届いた場合は、手紙や電話にてご連絡するよう支援している。また、年賀状・暑中見舞いなどできるだけご本人から出していただけるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は、自室にてゆっくり歓談していただけるように室温を調節したり、お茶をお運びするなど配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてミーティングで話をしたり、身体拘束に対する資料を職員がいつでも観覧できるようにし、身体拘束禁止の理解に努めている。また、研修にも積極的に参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間・日中とも居室に施錠することはないが入り口に鈴をつけている。。玄関に以前はセンサーを設置していたが、現在は見守りにて対応し使用していない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、時間に関わらず自室で過ごされることの多い方は、訪室して声をかけさせていただいている。夜間は基本2時間おきの巡視となっているが、状態に応じて巡視時間を1時間おきにするなど配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の状態や、ヒヤリハットなどに応じてミーティングを設け、話し合いの下行っている。ただ危険回避だけでなくご利用者様の気持ちもくみとり検討するよう努めている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策マニュアルを作成しており、ミーティング等で見直しを行ないながらスタッフ間で勉強したりヒヤリハット等を利用し対策を検討している。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	上記同様、マニュアル作成によりミーティング等でご利用者様の状態に応じて見直ししたり勉強会を開催している。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署を招いての訓練を行っている。懐中電気、乾麺、米、水等の備えをし、担当職員が確認し必要に応じ購入している。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご利用者様について、御家族へ起こりうる病状の変化や危険性についてその都度電話や面会時などに話が出来る様にしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日健康チェックを行ない状態を観察している。又、日頃の状態を申し送りや個々の記録で確認し、異変を認めた場合は、受診したり、救急搬送を行うなどの対応を行っている。	○
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康チェック一覧を作り、個々のご利用者様の服用情報や病院受診状況を把握出来る様にしている。又、生活日誌や個人記録に身体状況を記載するようにしており把握・援助に結びつけることが出来る様にしている。	○
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩をしたり水分摂取をさせていただいたりして便秘の予防・対応に努めている。スタッフ間では、便秘の原因等の理解について日々の申し送り等で模索し、対応に結びつけたり、勤務する看護師に確認を取ったりしている。	○ 足腰の弱い高齢者が多いので、転倒に注意しながら運動を行ない、かかりつけ医とも連携を図りながら、今後も対応していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、ご利用者様の状態に応じて義歯を洗浄したり、うがいを促すなどの声かけ・介助を行っている。	○
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気に応じて食事の量やバランスについて配慮出来る様にしている。また、系列事業所の栄養士より献立表を頂き参考にさせていただいている。	○
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルを作成して、随時対応出来る様にしている。地域の感染症の状態や季節によっておこる感染症について周知したら、即対応出来る様にしている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、使用する日か近日に購入し新鮮なものだけを利用している。調理担当者は、統一されたエプロンを使用して調理を行い、調理器具は、その都度洗浄消毒を行うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、季節の花を飾ったりするなどして和やかな雰囲気になるようにして外周には、季節の花を植えるなどしている。又、玄関には、相談を受け付けられるようにポスターを貼っている。	○	今後も左記に同様、季節の花を利用したり、明るく和やかな雰囲気を作り上げていけるようにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるだけ雑音を排除出来る様に窓の開閉に配慮している。また、季節の花を食堂や目の届く場所に飾ったりしている。廊下や居室は、行事の写真を飾ったりして居室の雰囲気づくりをしている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席など気の合う入居者様同士コミュニケーションが図れるようにしたり、ソファーを利用してゆったりとした雰囲気で会話出来る様している。	○	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の仏壇や使っていたボックスを持ってきて自宅で利用されており、ご自分の部屋で過ごされることが多いご利用者様もいらっしゃる。布団もご自分の毛布をご利用されている方も多い。入居時に御家族の方への説明も行っている。		今後も御家族と相談しながら、左記同様御自宅で使用されていたものを持ってきていただき、ご利用者様が安心して利用したいだけの部屋づくりに配慮していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適時スタッフの判断のもと行ない、室温調節は、設置してある温度計をもとに各居室、食堂など温度調整をこまめに行っている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	廊下・トイレ・浴室など手すりを設置。個々のご 利用者様の状態に応じて移動の導線になるように して、なるべく、ご自分での移動を安全に助ける ことが出来る様にしている。	○	今後も、手すりだけでなく利用者様 が、安全に生活していただけるようにス タッフは見守りを行える様に継続して努 めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	さり気ない見守りや声かけ・会話中のフォローを 行いながら、ご利用者様が、なるだけご自分で判 断出来る様にしている。	○	今後もスタッフ間で意識統一出来る様に ミーティングなどを通じてご利用者様の 出来る力を見出したり、理解したりする ことが出来る様に努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外回りは、散歩出来る様に裏の畑まで舗装をして あり、椅子を設置するなど配慮を行っている。	○	今後も、ご利用者様と一緒に活動として は洗濯物を干したり、楽しく散歩をし たりすることの出来る様に安全に配慮し ながら努めていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	③ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	② ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)